

令和6年度珠洲市総合教育会議

会議概要

- 1 開催日時 令和7年2月28日(金)
開会 午前8時50分
閉会 午前10時21分
- 2 開催場所 市庁舎3階会議室
- 3 出席者 ○珠洲市 珠洲市長 泉谷 満寿裕
○珠洲市教育委員会
教育長 吉木 充弘
教育長職務代理 大句 哲正
委員 濱 育代
委員 葛原 秀史
委員 刀祢 喜春

○事務局関係
総務課 課長 加賀 真樹
課長補佐 石尾 泰宏
教育委員会事務局 事務局長 岸田 和久
参事(兼)次長 太佐 真一郎
次長 坂尻 寛志
次長 前田 保夫
主幹(兼)係長 山下 裕子
主幹(兼)係長 徳田 聡美
- 4 傍聴者 なし
- 5 会議内容 別紙のとおり

1 開会	
泉谷市長あいさつ	まだまだ皆さん自身、困難な状況にあらうかと思いますが、その中で朝早くから、こうしてご出席をいただきまして誠にありがとうございます。 昨年元日の能登半島地震、本当に極めて甚大な被害が生じました。各学校も避難所として多くの方々が避難をされている中、発災直後の 1 月 11 日には、早いところは授業再開をされて、1 月 22 日までには全ての小・中学校で授業が再開されました。児童生徒の学びを守る、そんな意味において、吉木教育長をはじめ、教育委員会の皆さん、そしてまた各学校長、教職員の皆様方のご尽力のおかげと、改めて感謝を申し上げる次第でございます。 こうした中、各地区において、復興計画案の策定に向けて意見交換会を昨年 6 月・8 月・12 月と 3 回にわたり開催をいたしました。児童生徒数が減少していることもございまして、今こそ学校統合を急ぐべしといったご意見が多々ございました。震災の前から珠洲市議会におきましても、統合すべしといったご意見もございましたけれども、私といたしましては、できる限り学校を維持したいという思いで参りました。各地域と学校と、これは一体であるという思いからでございます。学校統合をすることによって、地域の活力が衰退するのではないか、そういったことが私としては非常に懸念をいたしております。 しかしながら、児童生徒数は、震災を機に 3 割ほど減少している状況でもございますし、大谷小中学校につきましては、震災前で 22・3 名を今年度の生徒数と見込んでおりましたけれども、現在は 5 名といった状況で、この春には 1 人卒業して 4 名体制になってしまうことや、三崎中学校もこの春の入学生がいらっしゃらない、極めて厳しい状況でもございます。 この総合教育会議、この場で結論を出すということではございません。慎重に議論を重ねていかなければならないと思っております。また場合によっては、この「望ましい教育環境の在り方」について、正式に教育委員会において検討委員会を立ち上げる、そんなことも視野に入れていかなければならないのかもしれませんが、本日はまず、教育委員会委員の皆様、忌憚のないご意見を頂戴したいと存じますので、何卒よろしくお願いいたします。 また部活動の地域移行につきましても、情報共有したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
吉木教育長あいさつ	泉谷市長におかれましては、日頃より教育委員会所管の事業推進に多大なご理解とご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。また教育委員の皆様には、お忙しい中ご出席をいただき、ありがとうございます。 今年度も残り少なくなってまいりました。これまで学校教育におきましては、幸いにも特段大きな事故等もなく、比較的落ち着いた状態で学校運営がなされております。 スポーツ、社会教育におきましても、先日 23 日にはペタンク大会が行われました。また 3 月 2 日には、ソフトバレーボール大会が予定されております。 公民館活動等もそれぞれの地区で徐々に活動が行われるようになってきているかなと思っております。

	教育委員会関連の施設も甚大な被害に見舞われましたが、学校施設につきましては、先日、文部科学省の災害査定が終わりました。今後、できるだけ早期に修繕に取りかかりたいと考えております。 また、公民館、健民体育館、野球場、ソフトテニス等の社会教育施設、スポーツ関連施設等につきましても、できるだけ早期に修繕し、市民の皆様の学びの環境作りに適切に対応していきたいと考えております。 なお、学校の仮設グラウンドにつきましては、当初の予定より遅れて大変申し訳なく思っておりますが、現在 7 校の入札が終わっているところであります。 本日の総合教育会議ですが、議題であります「望ましい教育環境の在り方」について、また「部活動の地域移行」について、泉谷市長と教育委員会が忌憚ない意見交換で思いを共有し、これまで以上に十分な意思疎通を図り、より一層市民の皆様の思いを反映した教育行政の推進を図ることができればと考えております。 そして、今後とも皆様方のご理解とご支援、ご協力、ご指導をいただきながら、さらに本市の教育環境が充実した内容となりますように、教育委員会としての役割をしっかりと果たしていきたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。
2 議事	
事務局	【児童生徒数の推移、各学校の被災状況及び復旧の見通し、珠洲市 PTA 連合会が実施したアンケートの結果について順に説明】
泉谷市長	はい。ただこれはどうですかね。QRコードをスマホに取り込んでアンケートに回答ということだったので、1 人の方が複数回答することも可能だったのかもしれませんが、そのあたりの信憑性は何とも言えないところがあるのかどうか。 ただ回答数からいくと、とてつもない数にはなっていないので、全く関係のない方が回答されているということも、それほどでもなかったのかというところや、あとは複数回答ではありますので、中学校に通っていらっしゃる生徒さんの保護者が小学校の統合についても回答しようと思ったらできたでしょうし、小学校の保護者の方が中学校についても回答することはできたと。複数回答ですから。 ということからすると、私も思っていたよりは、統合を望むといったところが小学校については 44.4%、中学校については 27.8%、各地区の意見交換は、もう本当に皆さんがそう望んでいるといったような発言でしたので、雰囲気的にいけば、もう 9 割前後ぐらいが統合を望んでいらっしゃるのかなという思いはありましたけれども、こういう数字ということでございます。 あくまで参考ということになるのかなと思いますけれども、なかなか今、学校のグラウンドも応急仮設住宅がほぼ立ち並んでいますので、早急にどこかに統合するのなかなか物理的には難しい面もあると思いますが、様々な観点から忌憚のないご意見を賜りたいと存じますけれども、まず濱委員さん、いかがですか。
濱 教育委員会委員	10 地区、160 の集落にとって、地震が発生したその時は、学校という建物が人々の命を救ったところは非常にたくさんあったと思います。

	耐震構造がなされていて、鉄筋で、毛布等の備蓄品が既に備わっていて、100 人、200 人という単位の市民が避難できて、体育館や教室等に状態を分けて市民の人たちを避難させることもできて、中へ入っていた人たちは黒板、拡声器、マジックなど、いろんなものが学校にある中で、その日その日のタイミングに合わせて、非常に指示がしやすいものが学校にはいっぱい揃っていたということで、「学校があって良かった」「学校に助けられた」「学校に命を救われた」という声が非常にたくさんありました。 そういう中で、統廃合とは別ですが、学校というものを 10 地区に残すという意味を、子どもたちの教育はもちろんですが、違う視点からも考えてみないといけないんじゃないかなと、当初の人々の声を聞きながら思いました。「命を守ってくれた建物が学校だった」という言葉は非常に印象に残っています。 教育の中身のところはまた後でお話したいことが…自分自身、現職の頃、へき地教育や複式教育に携わっていて、例えば熊本や島根で非常に高い実践をやっているところをいくつも見てきたので、そのあたりの話ができる機会があったらいいかなと思っています。 当初、そういう声があったということをまずお話したいと思います。
泉谷市長	おっしゃる通り、各地区に学校を存続させて、なおかつ耐震化も進めていましたので、これは本当にそういった意味で良かったと思っています。 あと例えば、正院小学校の避難所において、体育館は物資の集積もされていましたが、子どもたちが避難されている方に対してコンサートを開きたいといった児童自らの発案で進められる中で、大人は大人で体育館を片付けてそういう場を作ろうということで、本当に大人も子どもも一緒になってこの場を設営して、私その時直接は行けなかったんですけども、後ほどニュースの映像で見まして、やっぱり鳥肌が立つと言いますか、感動しました。 地域において、子どもたちと大人との関係性といいますか、お互いに支え合う。そういう姿がやはり理想であるという思いも改めて感じたところでもございます。それでは大句委員さん、いかがでしょうか。
大句教育長職務代理	できるだけ地区に学校を残すということが地域の活性化にも繋がるということで、児童生徒数が少なくなっても長く残ってきたのは大変ありがたいことだなと思っておりました。 ただ、令和 5 年までは、今は非常にありがたいけれども、10 年 20 年先は間違いなく児童生徒数が減ってきて、地域人口が減ってきますので、統廃合というのは来るんだろうなあと漠然と考えていました。 令和 6 年 1 月 1 日、大きな地震がありまして、正院地区の方々はほとんど小学校に集まりますと、多分 600 人に近かったと思います。どこも満杯ですよ。でも、学校があって助かったなというのは私も思いました。 その後、時間が経つにつれて、児童生徒がちょっと窮屈な思いをしていると感じました。特に、教育委員会でもよく話し合ったんですけども、全体的におとなしくなったと思います。子どもたちはお利口ですが、不平不満まで言わないんですよ。例えばレトルト食品を食べていて

	も、美味しいですって言うんですね。何かつらいことない?何もありません。大体そんな感じです。 私、蛸島や正院へ時々様子を見に行っただけですけども、休み時間に体育館へ走って行って、ボールを取り合っという姿が、避難している方と一緒にいるときは一切なくなります。 できるだけ、そういうことのない環境を早く作ってやる。それから、「工夫すれば運動はできる」というのは、確かにその通りですけども、やっぱり当たり前に、さっと外へ出てすぐグラウンドで駆け回る。そういう環境を作るのが大事なかなと思っています。 それで、保護者と地域の方との統廃合の声の違いが出たんですけども、私が思うのは、実際に子どもを学校に出している今の若い親御さんは、やっぱりここに残して欲しいという声はあると思います。 ただ、高齢者の世代になると、圧倒的に、「これでもう統廃合じゃないですかね」という声をよく聞きます。 結論を言いますと、私はもう 10 年 20 年先かなと思ったのが、ちょっと前倒しに来るのかなという感じを持っています。
葛原教育委員会 委員	学校の統廃合の問題につきましては、震災前から、いろいろと各地域で話が持ち上がって、議論されているのはよく聞いていまして、私も教育委員として、これから珠洲の将来を担っていく子どもたちに、どういう教育環境を提供すればベストなのかなと思いを巡らせていましたが、私の意見としては、伝統の継承、地域性という観点から、安易に統廃合はしない方がいいという意見です。 保護者のアンケートの中に、「地域の衰退は学校が統合されても廃れない」というご意見や、「祭りや地域行事は意思があれば継続できる」というご意見がありましたけれども、私は学校を統廃合すると、地域は廃れていくと思っています。 なぜかという、珠洲の場合は、飯田には飯田の伝統の祭りがある。上戸には上戸の祭りがあり、直には直の祭りがあり、正院には奴振りがあり、その地域の伝統行事が、本当に特徴ある伝統行事。他の地区には見られない、独特の行事が大変多い。似通った行事をしているところはありません。それを継承していくことは一つの地域性であり、それを子どもたちに伝えていくのは、地域の方々との触れ合いや、その行事に参加・体験することで培われて、子どもたちが大人になったときに、担い手となっていくと思っています。統合すると、将来の珠洲を考えたときに、地域性は完全に失われていくような気がしています。 学校は統廃合せず、少人数の利点を活かし、先進的な教育、あるいは英語教育等に力を入れて、特色を出していけば大丈夫だと思っているので、学校は残すべきという意見です。
刀祢教育委員会 委員	まず、離れていかれた子どもたちの意見をいくつか聞かせていただきました。宝立は小中一貫校ですけども、いかに素晴らしい学校だったかというふうに思いました。人数の多い学校に転校された子は、先生方もなかなか一人一人見られないと子どもたちは感じています。 小中一貫校に関しては、少人数ですけども、先生方が一人一人に目を配り、性格に応じて見られるのですが、マンモス校に行った子は非常に寂しい思いをしていると言っていました。私達はずっとそういう環

	境にいたので、学校の良さは少しばかり分かってはいましたが、離れていった人は特に感じているのかなと思っています。 10年ぐらい前から父兄の中で、いつ統合するのか、どうして統合しないのか、という話は多く聞きました。私も統合には賛成でした。子どもたちの数が少ない中で、勉強なりスポーツなり、競争心はなかなか湧いてこないと感じていたので、一つになればいいんじゃないかなと思ったんですけども、今の宝立では、「宝立ふるさと科」という授業の中で、地域のコミュニティーも大事ですし、宝立という町や祭を知ること誇りを持てるのではないかと、毎年発表を聞きながら感じていました。 地域の愛着を持ちながら育つのは大事だと思うんですけども、昨年の子どもが生まれた数は27名と聞いたので、先々非常に厳しいかなと今は感じております。 学校自体は、これからまた自然災害等があると思うので、各地区に残していかなければいけないと思うんですけども、一父兄として、中学校は統合を考えていかなければいけないのかなと思っています。
泉谷市長	ご意見をいただきました。私も非常になかなか、正直なところ、迷いはあります。できるだけ今の学校を維持していきたい。けれども児童生徒数の減少といったものが現実としてある。本当に難しいなと思っています。 ただ、今これから復旧も本復旧に向けて取り組んでいく。また併せて復興に向けても取り組んでいくという中で、刀祢委員さんからもございましたけれども、例えば宝立町におけるそれぞれの祭りの復活は難しいかもしれないけれども、シンボリックに「宝立七夕タキリコまつり」を何とか復活できないか、といったような思いがもし非常に現れてきたときに、そこに学校がないのは、なかなか難しいんだろうなと。 葛原委員さんのご発言にもございましたけれども、やはり蛸島は蛸島の祭りですし、正院は正院の奴振りがありますし、上戸の祭りと飯田の祭りはまた違いますし、公民館活動で補えるじゃないかという話もありますけれども、それで本当に大丈夫かなという思いはあります。 ただ議会の方でも、学校がなくなること地域で活力が失われる、地域が衰退するのではないかという思いを申し上げるんですが、なかなか珠洲市議会の議員さんの中でもそれでご理解が得られないといったような実情もあります。 あとは、学校がなくなった日置地区だって、狼煙頑張っているじゃないかとか。ただ自分は、あれは日置小中学校がなくなったことによって、とてつもない危機感の表れが、「道の駅狼煙」の運営や、様々な地域の活動に逆に繋がっているのかなと理解はしています。 なかなか答えが出づらい状況ではあります。ただ刀祢委員さんのご発言にありました、中学校の統合は考えてもいいんじゃないかといった、そういう部分的な考え方もあるのかなと思います。三崎中についてもなかなかそういった意味では厳しい状況があります。 ただ統合ということになると、やはりスクールバスですとか、登下校についていろんな配慮をしないといけないといったこともあります。 この復旧・復興のタイミングで早急に統合というのは、かえって復旧・復興に向かう力すらも失われるのではないかなという思いもありますし、ただ保護者の中では学校が統合しないことには、珠洲市に保護

	者が帰ってこないんじゃないかということをおっしゃる方もいますし、なかなか本当に難しいところがあります。 今のところ、議会に対する私の答弁としては、「今しばらくその児童生徒がどれだけ戻ってくるのか、そういった状況を見据えながら考えていきたい」という発言をしておりますが、今のところどうなんですかね。発災後一旦珠洲市を離れた児童生徒で、若干の戻りというのは把握できていますかね。 先立っても、一旦珠洲市は離れていたけれどもお子さんが小学校に戻りたいということで戻ってこられたと。そこはもうご家族、また一緒に珠洲で頑張ろうということに繋がったという話もありました。
事務局	小学校は、飯田・直・若山・蛸島プラス 1、正院プラス 4、みさきプラス 2、上戸・宝立小中前期・大谷小中前期は増減なしです。 中学校は、緑丘プラス 4、三崎マイナス 1、宝立小中後期・大谷小中後期は増減なしです。
泉谷市長	若干戻られたけれども、今現在で当初見込まれていた児童生徒数からすると、小中学校合わせてマイナス 27%弱。7 年度、4 月から戻るという話は飯田小が多い。なかなか宝立小中・大谷小中は難しい。 刀祢さん、宝立の被害があまりにも甚大だということもやっぱりあるんでしょうね。
刀祢教育委員会委員	宝立はほとんど全壊。みなし仮設住宅で金沢方面へ行った方も多くて、2 年後が勝負だと思います。
泉谷市長	2 年後というのは例えば、災害公営住宅とか。それからいっても住まいの確保は見通しだけでも急ぐべきですね。 大谷も厳しいですし、豪雨災害もありました。なかなか戻りづらい。
濱 教育委員会委員	大谷は、自分が入っている金沢や白山市のアパートの期限が切れる、その 2 年後は帰ってこようかなという声は聞きます。 ただ、多くの保護者の方から、大谷峠を運転するのが怖いというご意見や、帰ってきて大谷で住む場所がそれまでに確保できるだろうかというお声も聞きます。 水道がずっと止まっていた頃は、なかなかそのタイミングで帰ろうということではなかったと思うんですが、今仮設住宅が動き出して、仮設の人たちも自治的にいろんな話し合いをしながら、仮設にいても避難訓練をこうやって行おう、大谷小中学校のどこへ逃げようという話し合いもあり、自治のところが少しずつ動き始めている。 そんな声も離れている人たちは聞きながら、大谷峠と住む場所がある程度見通しが立てば、帰ってきたいという声は聞きます。
泉谷市長	ただ大谷トンネルの復旧だけでもなかなか難しく、トンネルの内側のコンクリートが剥がれ落ちた、それをもう一度復旧すれば何とかなるのではないかとというのが最初の見通しだったんですが、山全体がまだ動いているというところがあって、そこをしっかりと様子を見ながら、この春に復旧の工法を決めるということですので、それから具体的な復旧という形になるとと思いますから、まだしばらくかかるでしょ

	うね。まだ国交省の方から正式に見通しは示されておりませんけれども、自分が思う限り、令和 7、8 はかかるだろうなと思いますね。 幸いなのは、国土交通省さんが権限代行で直轄で復旧していただけるということが本当に心強く思っています。 そんな中であって、令和 7 年 4 月から統合というわけにもいきませんし、まだまだ慎重に議論を重ねる、しかも結論ありきではないと思いますので、継続していかなければなりません、ただやはり保護者の方々の思いとして、少人数だと部活がままならない、選択肢が限られている、あるいは少人数であるが故に丁寧な教育には繋がっているけれども、競争心が育まれないのではないかとといったこともあります。 少人数だから、その子の良さを伸ばすとともに、保護者の方々が受け取っているデメリット的なところをカバーするといったことも、今 ICT などいろんな取り組みがありますので、そこで補っていければと思います、そのあたり、教育長をはじめ教育委員会として、具体的な部分についてお話いただければと思います。
吉木教育長	大きな学校は大きな学校の良さと弱み、また、小さい学校は小さい学校の良さと弱みがあると考えています。それと関連して、統合する良さと、各地域に学校を残す良さと、それぞれに良さがあると思っています。教育委員の皆様方からいろんな意見をいただいて、そういったことを参考にしながら進めていきたいと考えていますが、本市においてはいずれも小規模校なので、一人一人に応じた指導は、通常の大きな学校から見れば私は非常に強みだと考えています。 一方で、学び合うとか、切磋琢磨することに関しては、やはり弱みだなと考えています。弱みをどう補っていくかということが、教育委員会に課せられた大きな課題と考えています。 子どもたちが集まる機会を多くしようということで、体育交歓会とか、音楽の集いとか、子どもたちが学校間同士繋がるような機会をできるだけ設けていきたい。ファイダーというところから、子どもたちの移動用にマイクロバスを 2 台寄贈いただきました。大いに活用していきたいと考えています。 コロナ禍で 1 人 1 台端末を子どもたちが持っていますので、学校に来れないときにオンラインで繋いで、自宅で授業を受けることも取り組んできましたので、そういったことを活かしながら、学び合うということに関して、近隣の学校を繋いで合同で学習の交流をオンラインで設けていくことができないか考えています。 オンラインで交流授業をするときには時間割、時間帯が合わさっていないと、なかなかすぐにはできないということがありますので、いつでも繋げられるように近隣の学校の日課、始業時間であるとか 1 限目 2 限目といった時間を、次年度から合わせるような取組で学校と話をしています。 学び合うということがより必要とされ、そういった教科の時間割を近隣の学校で合わせていく取組を、本年度 2 学期以降進めて成果と課題を洗い出しながら、それを踏まえて、次年度取り組んでいくことにしています。そういった状況の中で、少人数の弱みを少しでも補えるような形でやっていけないか取り組んでいるところです。 併せて、体育とか音楽とかの技能教科はオンラインではなかなかうまくいかない、集合学習を増やしていきたいと考えています。

	部活動の地域移行も、そういった弱みを少しでも解消できるように、今年度進めてきたところです。 そういった弱み強みを、統合ありきとか統合なしとかではなくて、いろいろ出し合って、少しでも子どもたちの環境が良くなるように向かっていければと考えています。
泉谷市長	もう十数年間、珠洲市議会においては、なぜ統合しないんだ、早く統合しろといったご意見がずっとございまして、ただ、その十数年前と今と格段に違うのはＩＣＴだと思います。１人１台端末のタブレットが児童生徒にございますので、グループなのか全体なのか、２つの学校間なのか、例えば国語の授業を何校かでオンラインで繋げて一緒にやるということもできると思います。先ほど教育長がそういった準備も既に進めているということでしたが、学年に２クラス、３クラスある学校と、複式も含めて少人数学校との差、例えば１つの学校に国語の先生が何人もいらっしゃる学校とそうでないところとでは、切磋琢磨、学びが少し気になるところはありますが、オンラインで繋いで先生が複数人関わって授業を作り上げていくというのは、逆に先進的な感じがします。今でも一生懸命やっていたいただいていると思いますが、そういうふうに持っていければずいぶん違うのではないかと、そのあたりについてはどうですか。
吉木教育長	珠洲市全体が一つの学校で、普段はそれぞれ分かれて個別にあるけれども、集まったり、元の学校ごとのグループに分かれたり、いつでも集まって、また分かれてやるということが非常に自由にやれるようになると、その良さと弱みというのはどちらも活かせるのかなと。一人一人に応じた指導も丁寧にできるし、学び合うということもできる。クリアしなければならないことはたくさんあると思うんですけども、地域的なこととかも維持しながら、切磋琢磨する、学び合うということもできていると考えています。
泉谷市長	体育の授業となると、オンラインというわけにはいかないと思うんですが、なんとか緑丘中学校の市営グラウンドの部分については応急仮設住宅を整備することなく、そのまま温存しましたので、そこでうまく集まっているような取組ができればと思っています。 各学校の体育館については、とりあえず全て使用できる状態でありますので、どこか１か所に学校統合で集まるというのは逆に難しくなりますが、今の人数の状況だと、グラウンドが使えなくても体育館でかなりのことができる状況であると思っています。 少し関連するので、部活動の地域移行について教育委員会の方から説明をいただいた後、今の状態の中でもこういったことは工夫してできるんじゃないかというご意見を、改めて委員の皆様方から頂戴したいと思いますので、まずは部活動の地域移行について説明願います。
事務局	【部活動の地域移行について説明】

泉谷市長	この度、小学校のミニバスケットボールが石川県大会で準優勝して、北信越大会出場となりました。その中にも能登町の選手が 2 人ほどいらっしゃいました。珠洲だけじゃなくて、卒を超えてといった動きもありますけれども、地域移行ということで、中学校とすれば宝立、大谷、緑丘、三崎の 4 校が補い合って、一体となって取り組むという体制を築いてきたということです。 こういったことも含めて、統合については考えていかなければならないけれども、今現在の状況の中で少人数のデメリット、そういったところを乗り越えていく、それを逆に活かしていくために何ができるかといったあたりについて、いかがでしょうか。
濱 教育委員会委員	先ほど教育長さんからこういう形でというお話がありましたが、それが実現すれば、すごい先進的なことだと思います。さっき島根県の例を言いましたけども、島根県は全県のうちの 30%以上が複式を有している小さな学校です。そういうところが実践しているものにも負けないほどの、子どもたちが生き活きとした表情を見せたり、たった 2 人、3 人しかいないのにこんなに意見が飛び交うのか、他者意識をした考え方ができるのかというような授業が、教育長さんのお話をもっと具現化していくと、できる形になっていくんじゃないかと思っています。 体育とか音楽はしにくいついていうのは確かにそうで、大谷小中ができた年に東海北陸の複式の授業の大会があったんですが、その時、宝立小中学校と体育の授業を年間お互いが行き来して合同でやるという発表をさせていただきました。多くの参加者から、こういう工夫ができるのは教育委員会のバックアップがないとできない、お金的にも双方の打ち合わせ的にもできないことが、こうやって珠洲市はできていることは素晴らしいというご意見もいただきました。 音楽に関しては、例えばパート練習をしようと言っても、1 人のクラスだったら低音と高音を合わせて授業はできないので、そういうところをオンラインでやったりとか、お互いに時間割を揃えながら交流したりとか、そういうことにより子どもたちが少ない人数だけど僕らはすごかったんだと言えるような学校を作っていけるんじゃないかと思っています。 具現化するために、何をどう準備していくか、一気にできないと思うので、例えば合同体育、集合体育というものを何回も何回もやって、その弱点を洗い出しながら、それを改善していく。そこら辺を積み重ねていくっていうことが大事だと思うし、部活動も一緒だと思います。 いきなり全部が一気に集まるんじゃなくて、何曜日と何曜日はここに集まって、市全体でバスケをやろうとか合唱の練習をしようとか、そういうことを積み重ねながら、次はそれを毎日のようにするには何が足りないのかを洗い出していく準備をこの 1 年かけてする中で、こういう手立てで子どもたちは変わったから学校が地域に残るっていうことを、子どもたちの姿を通して見せていくことが非常に大事なかなと思います。
大句教育長職務代理	部活動の地域移行について、大変ありがたい話だと思っております。児童生徒にとって、個人の技量を上げる、そのために努力する。あるいは、団体競技で協力し合って 1 つの目標に向かってやる。とても教育にとって大事なことだと思いますので、これは絶対必要だと思ってお

	ります。集団で何かやる、一生懸命やって、勝った、喜ぶ、負けた、泣く、こういう体験がとても大事なことだと思うんです。小さい子どもから小学生、中学生が、いろんな成功体験を積み上げていくということがとても大事だと思いますので、ありがたいことだと思います。 それから、学校に部活を全て任せますと、種目も限られてくるし、教員配置が少なくなってくると、全然やったことないのにこれをやれと言われた先生の方もなかなか大変かと思います。そういう面で専門性を持った人物がその指導に当たるというのは大変いいことだと思います。 懸念は、勝利至上主義になってしまい、越えてはいけないところまでやってしまうというのを聞いたりしますので、学校の教員も入った上で、子どもたちの教育の一環としてやるときはここまでという歯止めみたいなものが必要なのかとったりもしております。総じて、良い取組だと思って賛成をいたします。
葛原教育委員会 委員	昨年、正院小学校を訪問したときに、校長先生が運動会を蛸島小学校と合同でしたときの話をされ、大変良かったというふうにおっしゃられていたので、体育的な行事はできるだけ他の学校と合同で行っていけば、その少人数のデメリットの的なものはクリアできるんじゃないかと思っています。 昔、上戸と飯田と直で連合運動会がありました。ああいう機会をもっと増やしていけば、少人数のデメリットはクリアしていけると思うし、今珠洲市で取り組んでいる SDGs 学習会とか生き物観察会とか、市内の小学校の集まる機会が増えて大変いいなと思っておりました。こういうのを増やして、発表だけでなく、もっと子ども同士が話し合いをできる時間を作っていけば、自分の地域の友達だけでなく、他地域の子どもたちとの交流ができて、よっぽど人間が鍛えられるんじゃないかと感じております。 地域移行に関しても、大変いいことだと思うのは、私の娘が吹奏楽をやっていて、10 人以下で活動していたので、これじゃ吹奏楽じゃないという話をしてたんですけども、珠洲吹奏楽団と一緒に練習するときがあると、すごく刺激を受けて良かったと言っていたので、スポーツにしる、音楽にしる、地域のクラブに子どもたちを参加させていく体制ができれば、それこそ人間関係が希薄とかということも解消されますので、学校は残しつつ、クラブは地域移行するということで進めていけば、大丈夫じゃないかと思います。
刀祢教育委員会 委員	地域移行を推進していくということで、私自身嬉しいと感じました。10 年ぐらい前は、宝立小中学校の生徒が緑丘に行ってもこのスポーツがしたいということでも、なかなか行くことができなかった。ここ最近では行きやすくなり、私の子どもも昨年、野球がしたいということで緑丘に行きたいと言いました。他 3 名の子どもも緑丘に行きたいと言ったんですけど、いろいろな理由で 2 名は行くことができなかったんです。子どもたちはやっぱり多くの人数でスポーツがしたいっていう思いはすごくあると思います。 今回こうやって野球チームが地域移行としてクラブを作っていただきました。宝立はグラウンドがなくて、ずっと体育館で練習をして、環境が全くない中、いきなり外の競技の大会にぶっつけ本番で出るとい

	うのは非常にかわいそうだと感じました。そんな中でスポーツクラブを作っていただいて、非常に感謝しています。子どもたちも大会に出るのを非常に楽しみにしながら、日々活動しているんですけども、その前までは野球人口も減って、宝立としても 10 人揃わない時期が多くあり、その時は野球部以外から生徒を借りて無理やり大会に出ていました。各中学校の部活存続が難しい時なので、こうやって地域移行のクラブを作っていただいたことは本当に嬉しく思っております。 トランポリンとかサッカーとかやっている小学生が多いと感じるんですけど、こういう協会もいろいろ動いていただければ、子どもたちの選択も増えるんじゃないかと思っています。
泉谷市長	地域移行については、また今後順次展開をしていけるように、よろしくお願いをしたいと思います。 時間も限られていますが、ご発言ございますか。教育環境の在り方全般について、いかがですか。
吉木教育長	せっかくの機会ですので、こういう取組もしているということをご承知いただければと思うんですけど、例えば中学校で言うと、緑丘は教科によっては先生が複数いることもあるんですけども、大谷、三崎、宝立は基本各教科 1 人の先生しかいません。1 人しかいないと、指導に当たっての相談もなかなかできない環境の中で、教員総合研修センターに働きかけをして、奥能登の先生方を中心に、教科ごとに時間帯が決められていつでもそこにオンラインで相談できる機会を月に何回か設けて、子どもだけじゃなくて先生方もそうやって他の学校の先生方と繋がるといった取組も県の方で対応していただいております。小規模校の子どもや環境の弱みだけでなく、先生方についてもそういった取組を行っているということをご紹介します。
大句教育長職務代理	隣の町はこうや、隣の市はこうやという話がありまして、例えば能登町は小木中学校が今年で終わって、松波中学校は 2 年まで通って、3 年後は能都中学校に行くと、あっけらかんと言うんです。決まっていることをきちんと受け入れておいでる。そういう話を聞いた上で、珠洲はどうなるのか、漠然とですけど、このままじゃないっていうのはみんな思っております。地域に学校を残していただくと大変ありがたいです。ただ、今年生まれた子が二十何人ですか、6 年後には小学校に入る。二十数名で 9 つの小学校がそのままっていうのはちょっと考えにくいと思いますので、できるだけ余力のあるうちに将来のプランを示していただければ納得する部分があるかと思います。このままずるずる珠洲市の学校はどうなるのかという懸念の声を聞いたりします。ちゃんと何とかやりますよ、今はともかく珠洲市の復旧復興が最優先なんで、それが終わってからという話をしているんですけど、将来的なビジョンがこうだということを早く示していただければ、みんなもう少し教育に関して納得、安心するという気がしておりますので、よろしくお願いします。
泉谷市長	他はよろしいですか。 冒頭申し上げましたように、今後も児童生徒の望ましい教育環境の在り方について向き合って、考え続けていかなければならないと思っ

	ています。また来年度にかけても、どういう形で議論を深めていくかといったことも含めて、皆さんとともに考えていきたいと思っていますので、何卒引き続きよろしくお願いをしたいと思います。 長時間にわたりまして、ありがとうございました。
--	---

【 終了：午前 10 時 21 分 】